

\*\*\*\*\*  
今日の方  
\*\*\*\*\*

2025年7月21日～7月27日

翻訳 伊藤 若菜

編集 相川 忠義

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています  
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

7月21日(月)

敵を愛する

聖書朗読 マタイ 5:43～48

また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。 マタイ 18:15

私たちは、人間関係がこじれてしまって、悩む場合があります。そんな時、私たちは心配で眠れなくなるかもしれません。祈っても効果がないように感じるかもしれません。問題解決のために出来ることは無いと感じてしまうかもしれません。ですが、本日の聖書朗読箇所イエス様は、こじれた人間関係の修復のための、とてもシンプルな指示を与えて下さっています。そしてその指示は、シンプルかつ最も確実な方法とも言えましょう。問題がエスカレートする前に解決する上で、大切な教えだと思います。今もしあなたが人間関係で悩んでいるのなら、この主イエスの言葉に耳を傾けてみましょう。

イエス様は、次のようにおっしゃっています。まず、関係がこじれてしまった人（相手）のところに行って、何が起こったかを説明することが大切です。つまり、「あなたはそんなつもりで言ったのではないでしょうが、私にはこのように伝わりました」と伝えることが大切です。そうする時、たいていの場合、互いの間に理解が生まれ、和解へと導かれるのではないのでしょうか。こんにち、人間関係でこじれが起こると、あまりにも多くの人が、不満や怒りをメールなどで第三者に伝え、当事者と直接話をしません。しかし、それは多くの場合、問題を大きくするだけなのです。まずは、問題を直接話し合うことが、関係を修復する最善の方法なのです。そして、どんな場合でも、不仲になってしまった人や敵のような人のために祈りましょう。祈っている相手のために怒り続けることは難しいことです。神に従うあなたに、神様の祝福がありますように。イエス様は、力と知恵と平安を与えて下さいます！

讚美歌 333 主よ、われをば

祈り 親愛なる父なる神様、今日、あなたのすべてのアドバイスと助言に従う勇気を、そしてあなたの恵み深い愛と知恵を賛美し続ける勇気を与えて下さい。イエスの御名によりお祈りいたします。アーメン。

アイオワ州クレグホーン / ロバート・ブレア



7月24日（木）

## 賢い人と愚かな人

聖書朗読 マタイ 7:24～27

だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。

マタイ 7:24

私は、韓国で17年間宣教師として生活しました。韓国では、いくつかの家（借家）を転々としました。借りた家は、それぞれに良さがあり、特に韓国のオンドル（床暖房の一種）は、私のお気に入りでした。借りた家の中でも、特に印象深い家は次のような家でした。

その家は、急斜面のすぐ隣に（急斜面と隣り合う形で）建てられており、その限られた土地を上手に使っていました。家の急斜面側には窓が無く、車庫の上（2階部分）を庭として利用していました。家の屋上部分は、家主の庭になっていました。契約をする前、家主は「雨季になると少し大変な思いをするかもしれませんよ」と言っていました。私は、それはカビが発生する程度のことだと思い、それなら私たちでも対応できるので、私たちはその家を借りました。そして雨季が来るまでは、すべてが順調でした。ところが、雨季になり、「大変な思い」が何であるか分かりました。それは、雨季になると発生する噴水のようなひどい雨漏りだったのです。そして、いったん雨漏りが始まると、私たちは途方もない時間を水の汲み出しに使わなくてはなりませんでした。その家は、（大雨の際）急斜面から水が入り込んでくるという問題がある家だったのです。のちに、その家は取り壊されたそうです。

私たちは、岩の上に家を建てた賢い人と、砂の上に家を建てた愚かな人に関するイエス様のたとえを思い浮かべずにはられませんでした。賢い人とは、イエス様の御言葉に耳を傾け、それを実践する人です。愚かな人とは、この世の移り変わる砂に耳を傾ける人のことです。岩の上にこそ、私たちは家（人生）を建てたいものです！

讃美歌 280 わが身ののぞみは

祈り 親愛なる神様、御子をこの地上に遣わし、私たちに生き方を教えてくださいましたことを感謝します。御名によって祈ります。アーメン。

テキサス州オースティン / ジョイス・ハーディン

7月25日（金）

## 真の安心

聖書朗読 マタイ 7:25～34

あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません。

ヤコブ 4:14

私たちは、先のことを見据えて、様々な計画や対策を考えます。考えられるあらゆる災難から身を守るために、様々な保険に加入します。また、年金の報告書をチェックし、老後の備えが予定通りに進んでいるか確認します。さらに、定期的に健康診断を受けて、少しでも潜在的な問題を回避しようと努めます。

もちろん、これらはすべて賢明で意義あることだと言えますが、その背後には「私たちの、将来に対する不安」があるとも言えましょう。言い換えれば、「私たちは、将来に対する安心感を求めている」ということでもあるのです。ですが、ヤコブは、その手紙の4章で「あすのことはわからない」と語っています。確かに、「これから先のことに関して、完全に安心できる」ということは、ないのかもしれませんが。

「私たちの人生が、時間の経過とともにどう導かれていくのか」ということは、私たち（人）にはわかりません。私の地上人生はあと40年あるのかもしれませんが、もしかしたら僅か40秒の可能性さえあります。私たちはこれから先のことを見据えて様々な計画や対策を立てますが、「これから先のこと」には不透明な面が多いのです。ですが、私たちには素晴らしい選択肢があります。それは、「神様に信頼を置いて生きていく」という選択肢です。神様は、「これから先のこと」をもすべて御手に治めておられます。そして私たちは、その神様によって守って頂く恵みに与っているのです。この恵みに感謝いたしましょう。

讃美歌 270 信仰こそ旅路をみちびく杖

祈り 神様、私が自分の計画に頼らず、あなたに全幅の信頼を置くことが出来ますよう、お導き下さい。明日をあなたにゆだね、今日、あなたに仕えることに集中出来ますよう、お導き下さい。イエスの御名によって。アーメン。

ミシガン州ウォーターフォード / ケリー・ウイリアムズ

7月26日（土）

## なぜこわがるのか

聖書朗読 マタイ 8:18～21

これらの出来事の後、主のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」  
創世記 15：1

私たちは「イエス様が導いてくださるところならどこへでも喜んで従う」と思いたいのですが、実際にはそれは簡単ではありません。本日の聖書箇所では、ある律法学者が主イエスに従いたいと申し出ますが、その直後に主が言われたことは「人の子には枕するところもない」ということでした。主に従って生きることは、楽な生き方ではなく、むしろしばしば困難を伴うものであることを、主は示されたのでしょう。また、「父親の葬儀を済ませてからイエス様に従いたい」と言った人に対する主のお言葉（22 節）は、厳しすぎるお言葉のように聞こえるかもしれません。ですが、ここで主が言おうとされていたことは「イエス様に従うということは時に大きな犠牲を必要とする場合もある」ということだったのではないのでしょうか。

こうしたやり取りの後、本日の聖書箇所の舞台はガリラヤ湖に移り、そこでイエス様と弟子たちはひどい嵐に巻き込まれます。彼らはイエス様を起こし、助けを求めます。イエス様は風をしっかりとらえ、嵐を静められ、弟子たちに「信仰の薄い者たちだ」と言われました。時に、イエス様に従っていくことは、嵐の中を舟で進むようなものなかもしれません。そして、大切なのは信仰なのです。私たちの人生も、時に嵐のようになりますが、そのような中でも私たちを守り導いてくださる主に信仰を置くことが大切なのです。「今自分が置かれている状況が改善して、自分の準備が整ったらイエス様に従う」のではなく、今イエス様とその言葉に信仰を置くことが大切なのです。

聖歌 500 みことばなる

祈り 親愛なる主よ、私たちは心からあなたに従いたいと願い、あなたの忠実な弟子でありたいと願います。あなたが導いてくださるところなら、どこへでもついていく勇気を与えて下さい。恐れることなく、信じることができるように助けて下さい。イエスの御名によって。アーメン。

アーカンソー州フェイエットビル / スコット・ゲージ

7月27日（日）

## 嘆くときも

聖書朗読 マタイ 11:25～30

私は私の嘆きで疲れ果て、私の涙で、夜ごとに私の寝床を漂わせ、私のふしどを押し流します。  
詩編 6：6

「おはよう。お元気ですか？」「元気だよ」。こうした、よくある挨拶をしてくれる人も、人知れず悲しみや心配で悩んでいる場合があります。神様は、ダビデの嘆きを誰よりも先に聞いて下さったお方ですが、私たちの嘆きにも真剣に耳を傾け、私たちに応えて下さるお方でもあります。私たちも一晩中悲しみや苦しみで心が一杯の時があります。ベッドで横になっても、心が騒ぎ、寝付けぬ時があります。不安や恐れは、止まることのない回転木馬のように心の中を巡り続けます。

詩篇 6 篇は、神様に何を語りかければ良いのかわからない、あるいは祈る言葉さえないような、大きな悩みや絶望に直面した私たちに、祈る言葉を与えてくれます。また、この詩篇は、神様が私たちの叫びに耳を傾け、確かに応えて下さることを、私たちに教えてくれます。「主が私の泣く声を聞かれたのだ。主は私の切なる願いを聞かれた。主は私の祈りを受け入れられる」（詩篇 6:8-9）。

この詩篇が書かれた数世紀の後、救い主キリストは、私たちと共に地上を歩いて下さり、こう言われました。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたを休ませてあげます」。この主により頼むならば、私たちには確かな希望があるのです。

讃美歌 II 編 41 主はわが牧者

祈り 主よ、暗闇の中に光を、葛藤の中に安息を、悲しみの中に喜びを、罪の中に恵みを、貧しさの中に富を、恐れの中に勇気を、谷間に栄光を見出させて下さい。イエスの御名によって。アーメン。

テキサス州グランベリー / クリス・フリゼル